

十勝教育研究

巻頭言

十勝教育研究所
副所長
大石 浩之

教育現場への期待

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぶれいおん・とかち
理事長
今村 江穂

退職教職員の紹介

我が歩みを語る

わたしの授業実践

陸別町立陸別中学校
教諭
渡邊 耕平

わたしの学級経営

豊頃町立大津小学校
教諭
林 正則

共に学び共に育つ

新得町立新得小学校
教諭
伊藤 佳子

健やかな心と体

中札内村立中札内小学校
栄養教諭
山田 昌未



日本人学校より

シンガポール日本人学校
チャンギ校
教諭
佐藤 紀子

日々徒然

幕別町立白人小学校
教諭
太田越雄三

日々徒然

音更町立駒場小学校
事務職員
中正 康葵

小学校高学年における

教科担任制について

特集

卷頭言

十勝教育研究所
副所長

大石 浩之

(幕別町立札内北小学校 校長)



生徒指導摘要の改訂 ～積極的な生徒指導と支える生徒指導～

平成22年に「生徒指導摘要」が作成されて以降、学校・生徒指導を取り巻く環境は大きく変化しており、加えて、いじめの重大事態件数や児童生徒の自殺者数が増加傾向にあるなど、課題はより深刻化している状況です。

こうした中、生徒指導の基本的な考え方や方向性を再整理し、今日的な課題に対応していくため、12年ぶりに「生徒指導摘要」が改訂されました。

改訂の基本的な方向性は、次の3点です。

- 「積極的な生徒指導」の充実
- 個別の重要課題を取り巻く関連法規等の変化の反映

「生徒指導」と、4層で構成される重層的支援構造へと変更されました。

その上で、これから生徒指導においては、特に常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導の創意工夫が一層必要になるとしており、「積極的な生徒指導」の充実を求めています。

もう一つは「まえがき」にある通り、今回の改訂では、課題予防・早期対応といった課題対応の側面のみならず、児童生徒の発達を支えるような生徒指導の側面に着目し、その指導の在り方や考え方について説明を加えていくことです。

今改訂では、生徒指導の定義を「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自發的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」とし、生徒指導の目的を「一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」と定めています。

生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで重要な意義があります。

今改訂を機に、改めて、生徒指導の在り方について見直し、全ての子どもたちが安心して楽しく通うことができ魅力ある学校づくりを進めていただきます。

子どもの自発的・主体的な成長を「支える」教師像とともに、子どもの

自己指導能力の獲得を「支える」生徒指導が求められていると言えるのではありますでしょうか。

また、令和4年6月に「こども基本法」が成立したことを受け、校則などを例に挙げ、子どもの権利に基づく対応を求めています。

さらに、「個別の課題に対する生徒

指導」として、いじめや不登校はもとより、インターネットにかかる問題

や、性的マイノリティをはじめとする性に関する課題、発達障害やヤングケ

アラーなどの多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導など、各個別課題についての内容や掲載ページが大幅に増加していることも大きな特徴となっています。

生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで重要な意義があります。

今改訂を機に、改めて、生徒指導の在り方について見直し、全ての子どもたちが安心して楽しく通うことができ魅力ある学校づくりを進めていただきたいと思います。

CONTENTS

24

22

13

4

2

1

◆卷頭言

生徒指導提要の改訂
十勝教育研究所

副所長
大石 浩之

教諭
伊藤 佳子

◆目次

◆教育現場への期待

認定NPO法人 子どもと文化のひろば

ぶれいおん・とかち

理事長 今村 江穂

◆特集

小学校高学年における 教科担任制について

音更町立柳町小学校

教諭 長野 隆宏

大樹町立大樹小学校

教諭 平 絵梨香

大樹町立大樹中学校

教諭 新井 樹

◆紹介

退職教職員の紹介「我が歩みを語る」

◆連載 わたしの授業実践

学習過程の重視と振り返りの充実

陸別町立陸別中学校

教諭 渡邊 耕平

◆連載 わたしの学級経営

遊びを生かした学級経営

豊頃町立大津小学校

教諭 林 正則

◆学校めぐり

上士幌町立上士幌小学校

校長 山田 圭介

◆連載 共に学び共に育つ

子どもが輝くヒントを探して
新得町立新得小学校

教諭 伊藤 佳子

◆連載 健やかな心と体

できることから始めてみた食育
中札内村立中札内小学校

栄養教諭 山田 昌未

◆日本人学校より

シンガポール日本人学校チャンギ校

教諭 佐藤 紀子

◆日 本 人 学 校 よ り

シンドウ小学校

教諭 鈴木 崇伸

◆教育情報

研究発表大会報告
数字で見る十勝の教育

教諭 佐藤 紀子

◆編集後記

研究発表大会報告
数字で見る十勝の教育

◆日々徒然

自分を見つめて

幕別町立白人小学校

教諭 太田越雄三

初心にかえって

音更町立駒場小学校

事務職員 中正 康葵

教育現場への期待



認定NPO法人
子どもと文化のひろば

理事長 今村 江穂さん
ふれいおん・とかち

「ふれいおん」には、「あそび続け
る」という意味があり、「もっと遊ぼ
う!」「みんなで遊ぼう!」という思
いが込められている。「子どもを真ん
中に、誰もが心豊かに育ち合える場

所」を目指して正会員が企画・運営を行っている。子どもから大人までの異年齢・多世代での遊びを中心とした「あそび×森づくり」「プレイセンターにじっこ」「夏・冬の寺子屋」など、活動は多岐にわたる。ふれいおん・とかちはそれらの活動を通じて、豊かな子どもの世界、子どもの育ちを見守ることができる地域社会づくりを目指す十勝初の認定NPO法人である。ふれいおん・とかちは来秋、前身の「十勝おやこ劇場」「帯広西おやこ劇場」から数えて創立50周年を迎える。「十勝おやこ劇場」は、子どもたちに本物の舞台芸術を届けようと全国で起きた運動に影響を受けて1973年10月に発足した。

今回は、ふれいおん・とかちの理事長として活動している今村江穂さんにお話を伺った。十勝全域で活動する「十勝おやこ劇場」が、NPO法人化に至りました。今、自己責任が問われる世の中で、親は他人に迷惑をかけられないという意識が強くなっています。親でも先生でもなく、地域のおじさんおばさんやちょっと年上のお兄ちゃんやお姉ちゃんのよ

長として活動している今村江穂さんに、子どもたちとの関わりを通して感じていることや、教育現場に期待することについて話を伺った。

まず、時代の流れに合わせてNPO法人化へ至った経緯について伺った。

「発足当時は少年団活動等あまり活発ではなかつたので、十勝全域で1000人から2000人ぐらいの会員がいたこともあったようです。しかし、少子化や子どもたちの習い事の選択肢が増えたことで、徐々に会員数が減り、子どもたちの地域での活動の場が失われていくことに危機感を覚えました。そこで、子どもも大人も一緒に学び合い育ち合える場を提供したいと考え、NPO法人化に至りました。今、自己責任が問われる世の中で、親は他人に迷惑をかけられないという意識が強くなっています。親でも先生でもなく、地域のおじさんおばさんやちょっと年上のお兄ちゃんやお姉ちゃんのよ

「子どもを真ん中に、誰もが心豊かに育ち合える場所」を目指して。

うなナナメの関係を大切に、子どもの成長に関わっていくことができる場をつくりたいと思いました。NPO法人として行政や学校ではできない体験や人とのつながりをつくることが活動の意義だと考えています」と今村さんは語る。

また、子どもたちとの関わりを通して、感じていることを伺った。

「子どものエネルギーを感じる場面が少なくなってきたことを心配しています。どのような活動をしていても、当事者意識が低く、どこか『他人ごと』であり、『自分ごと』として意見を言うことができない子どもが多くなっていると感じます。『自分はどんなことができるのか』『自分はどうしたいか』など、主体性をもって行動できようになつてほしいです。そのため、ふれいおん・とかちの活動は、ただサービスを受けるだけではなく、みんなで創る活動であることを大切にしています。また、ヒトは進化の過程

で、群れの中で共同で子育てをしながら、親としても成長していく『共同養育』のスタイルを獲得したと言われています。この先の未来は、決まりきった正解を答えることができたらよい時代ではなくなつてきました。だからこそ、多様な価値観をもつ人たちと大らかで緩やかな関係性を築きながら、自分なりの答えを探求し続けられるようになつてほしいです」と子どもたちへのメッセージを送つてくださいました。

最後に、教育現場に期待していることを伺った。

「子どもたちが、やらされるのではなく、好奇心や関心をもつて主体的に取り組むことを大切にしてほしいです。また、社会に出てから、人に頼らずに生きていくことはできません。学校生活の中でも、先生も含めて対等な立場でお互いを認め合いながら、高め合えるようなコミュニケーションが学べる場であつてほしいと願っています」という思いを語つてくださいました。



上：寺子屋先生の赤ちゃんと子どもたちの様子
下：定期総会2022の集合写真

右：スキー合宿2022の様子

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ふれいおん・とかち

問合せ先

- ◆ 電話 0155-36-0560
- ◆ e-mail info@play-on-tokachi.net
- ◆ H P <http://www.play-on-tokachi.net>

特集

小学校高学年における教科担任制について

教科担任制の導入について

全国・道内の教科担任制の実施状況と主な指導形態

「学級担任間の授業交換」等の先行的な取組事例

十勝管内の「学級担任間の授業交換」実践例

P. 4～5

P. 6～7

P. 8～10

P. 11～12

学習指導要領に示された資質・能力を確実に育成していくためには、義務教育9年間を見通した指導体制の構築が必要と言われています。その一つの方策が小学校高学年における教科担任制です。

今回は、今後導入する学校が増えることが予想される小学校高学年における教科担任制について、目的や導入形態、取組事例などについて特集します。

◆教科担任制の導入について

令和元年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会は、「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ」を公表しました。ここで示された8項目のうちの1つが、「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について」です。その予想される効果について、授業の質の向上や多面的な児童理解などが示されました。

その後、令和3年1月の「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」において令和4年度を目途に小学校高学年からの教科担任制を本格的に導入する必要があるとされました。

答申を踏まえ、対象とする教科や専科指導の専門性を保証するための方策などについて検討が行われ、令和3年7月に「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」が出されました。

「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」概要

（1）はじめに

○中教審の酒説は踏まえ、小学校高学年からの教科担任制の推進等に向けた教員定数の確保の在り方について専門的・技術的な検討を実施

○中教審答申で令和4年までに本格的に実現が必要とされたことを踏まえ、論点毎の考え方について一定の整理

（2）小学校高学年における教科担任制の推進方策について

（3）専科指導の専門性を担保する方策について

（4）学校規模や地理的条件に応じた教員配置の在り方について

小学校高学年における教科担任制については、わしが解説しているところ。



文部科学省HP「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」概要

◇教科担任制の概要

(1) 推進の基本的な考え方

報告では、基本的な考え方として次の3点を踏まえ、小学校高学年における教科担任制を推進する必要があるとしています。

- 義務教育の目的・目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を確実に育むためには、各教科等の系統性を踏まえ、学年間・学校間の接続を円滑なものとし、義務教育9年間を見通した教育課程を支える指導体制の構築が必要。
- GIGAスクール構想の加速化と併せて、きめ細かな指導により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、才能を存分に伸ばすことができる、個別最適な学びを実現していくために、新たな時代にふさわしい指導体制が必要。
- 個別最適な学びを実現する観点からは、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る必要があり、教科担任制の導入により、ICTの効果的な活用とあいまつて授業の質の向上ることが重要。

教師の負担軽減を図りつつ、これからの時代に必要な資質・能力の育成に向けて、義務教育9年間を見通した指導体制を構築することの必要性が示されています。

(3) 対象学年

子どもの発達段階を踏まえ、小学校の学習指導の見通した指導体制を構築することの必要性が示されています。

(2) 教科担任制導入の趣旨・目的

(1)を踏まえ、教科担任制を導入する趣旨・目的として、主に次の4点が示されています。

- ① 授業の質の向上／学習内容の理解度・定着度の向上
 - ・教科指導の専門性をもった教師がより熟練した指導を行うことで授業の質が向上し、子どもの学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- ② 小・中学校間の円滑な接続
 - ・中1ギャップの解消等小学校から中学校への円滑な接続を図る。

(4) 留意事項

これまでの学級担任制で、教科横断的なカリキュラム・マネジメントが効果的に行われてきた利点が損われることのないようにする必要があります。教科担任制を導入するに当たり、組織的・教科横断的な教育課程の編成・実施が可能となるようになることが必要です。

また、全ての小学校教師が、指導教科等について理解を深め、その関連を踏まえながら広い視野で指導が行われるようにすることが求められています。

教師の立場、子どもの立場の両面から考えても、教科担任制を導入することにより、多くのメリットがあるようです。

全教職員が教科担任制の目的を理解することや、学校組織として体制を工夫すること等で、効果が発揮されるのじや。



◆優先すべき専科指導の教科

教科担任制を進めるに当たり、教科指導の専門性をもつた教師によるきめ細かな指導と、中学校の学びにつながる系統的な指導の充実を図ることが求められています。

文部科学省では、グローバル化の進展やSTEAM教育の充実・強化、子どもの体力向上等に向けて、令和7年度までに次の4教科を優先的に専科指導の対象とすべき教科としています。

- 外国語：グローバル化の進展とともに、外國語によるコミュニケーション能力の基礎を養う専門性が必要とされるため。
- 理科：問題解決の過程を通じて、子ども自らが問題を科学的に解決したり、新たな問題を発見したりする活動等を充実させるため。
- 算数：社会や日常生活の事象と結び付ける活動の充実や、筋道を立てて考える力の育成が重要とされているため。
- 体育：自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する学習を開拓することや、系統的な指導を行うことができる専門性が必要とされているため。

◆全国・道内の教科担任制の実施状況と主な指導形態

(1) 全国の実施状況

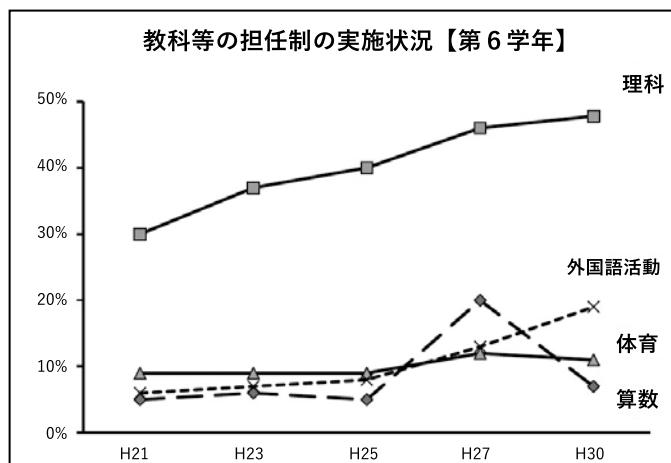
文部科学省「平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査」によると、第6学年では音楽（55・6%）、理科（47・8%）、家庭（35・7%）といった教科では3割以上の学校で教科等の担任制が実施されています。対照的に、国語（3・5%）、算数（7・2%）、体育（10・5%）というように、実施が進んでいない教科もあります。

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語 (書きを除く)	1.1%	2.3%	2.4%	2.5%	3.4%	3.5%
書写	6.6%	13.5%	26.8%	29.7%	26.6%	26.8%
社会			6.0%	7.4%	14.5%	15.5%
算数	1.5%	2.5%	5.1%	5.9%	7.3%	7.2%
生活	0.8%	1.6%				
理科			21.6%	32.3%	45.1%	47.8%
音楽	12.2%	20.7%	40.6%	47.8%	54.0%	55.6%
图画工作	4.3%	9.8%	16.8%	20.4%	20.4%	21.0%
家庭					33.9%	35.7%
体育	6.1%	7.4%	7.7%	8.4%	9.9%	10.5%
外国語活動			11.3%	12.0%	18.3%	19.3%

小学校等における教科等の担任制の実施状況【平成30年度計画】

(2) 北海道の実施状況

また、小学校第6学年の教科等の担任制の実施状況を経年比較した右のグラフを見ると、理科や外国語活動の実施率が伸びていることが分かります。算数と体育の実施率は10%前後と低いですが、優先すべき専科指導の教科とされたことで、これから実施率が伸びていくことが予想されます。



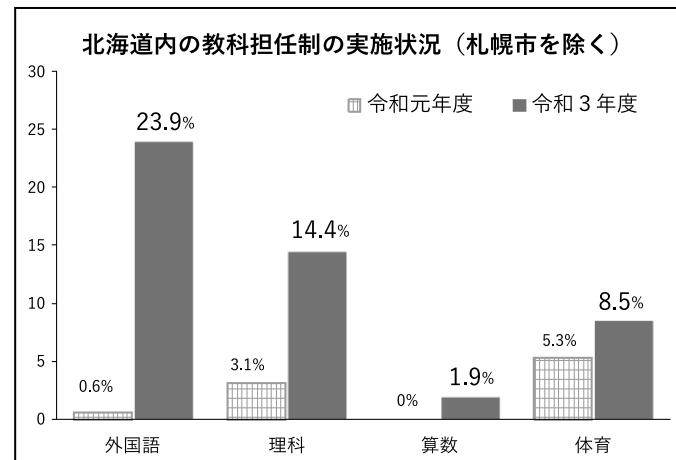
文部科学省「平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査」を基に作成
※ 他教科の実施状況なども更に詳しく知りたい方は、左のQRコードをお読み取りください。

札幌市を除く道内の小学校のうち、国の加配措置による専科教員を活用して教科担任制を実施している学校的割合は、次ページ上のグラフのとおりです。加配措置は優先すべき専科指導の教科のみのデータですが、着実に実施率が伸びていることが分かります。

「令和2年度 義務教育9年間を見通した指導体制に関する調査研究」報告書では、指導形態による分類として、下の表の4分類が示されています。

◇教科担任制の主な指導形態

十勝管内でも、理科や外国語といった教科を中心とし、専科教員が配置されている小学校が増えていました。専門性をもつた教員が指導することで、子どもたちの学習内容の理解度の向上、小・中学校の円滑な接続、心の安定などに期待がもてます。



道議会質疑 文教委員会 1月12日「小学校高学年教科担任制」
北海道通信 令和4年6月3日(金)を基に作成

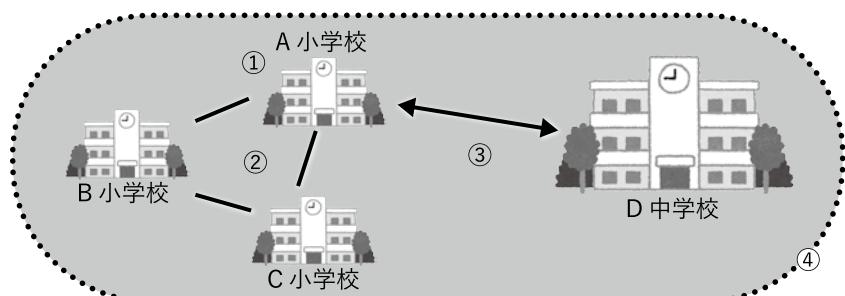
指導形態の分類

完全教科担任制	全教科について専科指導する形態
特定教科における教科担任制	特定の教科について専科指導する形態
学級担任間の授業交換	学級担任間で授業を交換する形態
学級担任とのTeam Teaching	特定の教科について、複数の教員で分担して指導する形態

連携範囲の分類

①単一小学校内	1つの小学校内の学級間で連携する形態
②複数小学校間	複数の小学校間で連携する形態
③小中一貫教育	1つの小学校と中学校間で連携する形態
④中学校区内小中連携 (小：中=複数：1)	中学校区内の複数小学校が、中学校を含めて連携する形態

※連携範囲の分類①～④は、下記の図の番号と対応しています。



「令和2年度 義務教育9年間を見通した指導体制に関する調査研究」
調査研究経過報告 (PwCコンサルティング合同会社)

理科や外国語といった特定教科における教科担任制や、学級担任との Team Teaching は、既に多くの学校で導入が進められています。今後は、学級担任同士で取り組みやすい「学級担任間の授業交換」の導入を進める学校が増えていくことも予想されます。また、左下の表のように連携範囲による分類として、同じく4分類が挙げられています。

十勝管内でも、③小中一貫教育や④中学校区内小中連携（学園運営）を進めている地域もあります。

しかし、②複数小学校間も含め、各学校単位で取り組むことは難しいのが現状です。そこで、次ページからは、各学校でも比較的取り組みやすいと思われる「学級担任間の授業交換」等のパターンと成果や課題を紹介します。

実践例を参考に、自校で取り組みやすい形態を話し合い、計画を立てていけばいいぞ。



「学級担任間の授業交換」等の先行的な取組事例

☆ 実践例 1 「学年内の授業交換」 ☆

「学年内の授業交換」は、特定の教科等を学年の担任間で分担して授業交換を行います。学年 2 クラス以上の規模の小学校で実施しやすい実践です。

- メリット
- ・同じ授業を複数回行うことで、教員自身の専門性の向上につながる。
 - ・教材研究の時間が減り、時間にゆとりが生まれ、子どもと向き合う時間が確保できる。
 - ・学習規律など学年で統一した指導が行いやすくなる。など



<各担任の担当時数>

- ・社会科…週 3 時間程度
- ・理科…週 3 時間
- ・図画工作科、家庭科…週 2 時間程度

<各担任の担当時数>

- ・音楽科、図画工作科…週 2 時間程度
- ・総合的な学習の時間…週 2 時間
- ・特別の教科 道徳…週 1 時間

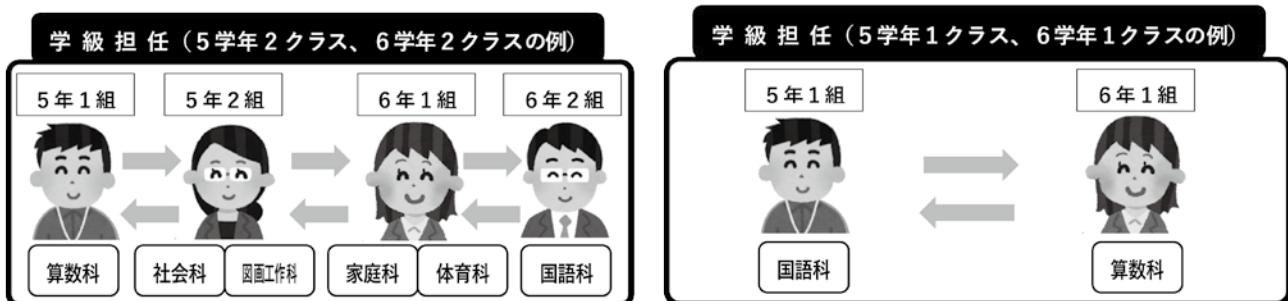


左上の例のように担任によっては 2 教科を担当し、担当教科の時数を調整することもできるぞ。
また、右上の例では 2 教科ずつ分担しておるが、1 教科でも実施可能じゃな。

☆ 実践例 2 「ブロック間の授業交換」 ☆

「ブロック間の授業交換」は、高学年の担任間で特定の教科等を分担して授業交換を行います。学校の規模によって下記の例のような形態で取り組むことが可能です。

- メリット
- ・複数の教員が指導することで、多面的に子どもを見ることができる。
 - ・教科の系統を意識しながら、見通しをもった学習指導を展開することができる。など



<各担任の担当時数>

- ・国語科、算数科…週 5 時間 × 4 クラス
- ・社会科…週 3 時間程度 × 2 クラス（5 学年）
- ・社会科…週 3 時間 × 2 クラス（6 学年）
- ・図画工作科、家庭科…週 2 時間程度 × 4 クラス
- ・体育科…週 3 時間程度 × 4 クラス

<各担任の担当時数>

- ・国語科、算数科…週 5 時間 × 4 クラス

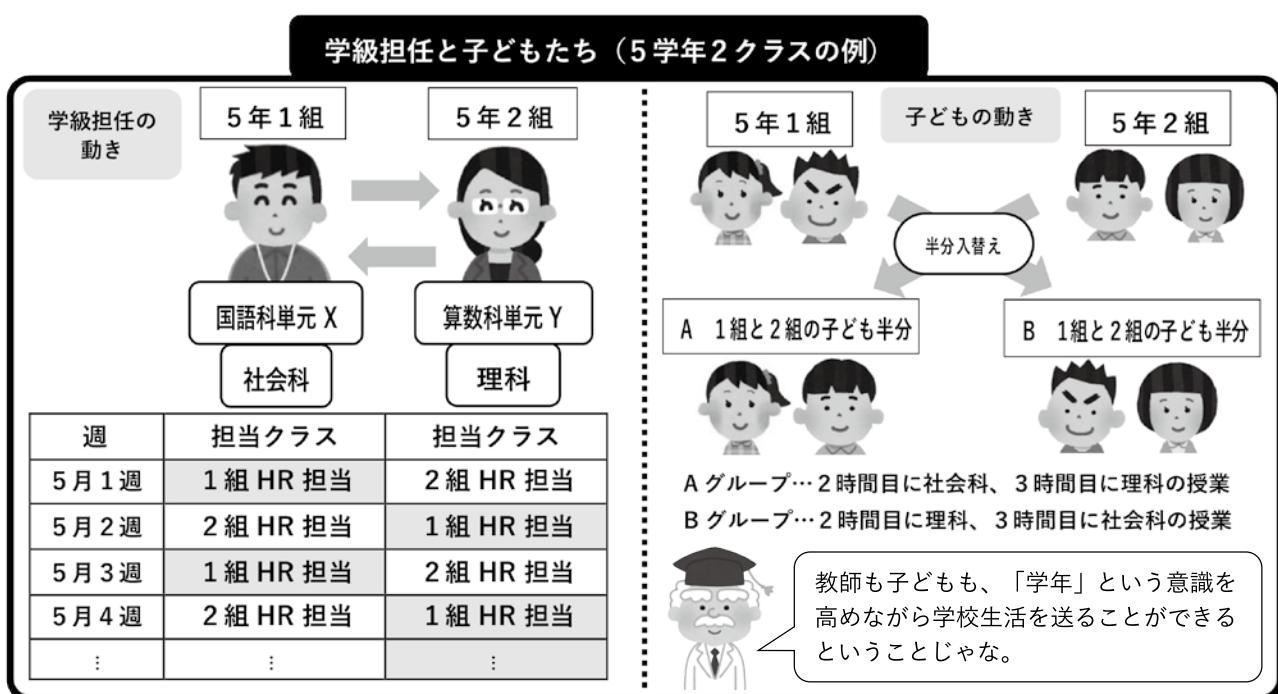
学年がまたがるということは、打合せや情報共有など、しっかりと連携を図ることが大切じゃのう。



☆ 実践例3 「学年担任制+学年内の授業交換」 ☆

「学年担任制+学年内の授業交換」は、担任が特定教科を担当する以外に、国語科や算数科で単元によって担当を変えたりして指導する方法があります。また、各クラスのHRを1週間ごとに交代で行うことが考えられます。子どもたちも、授業によってクラスの半分を入れ替える方法があります。

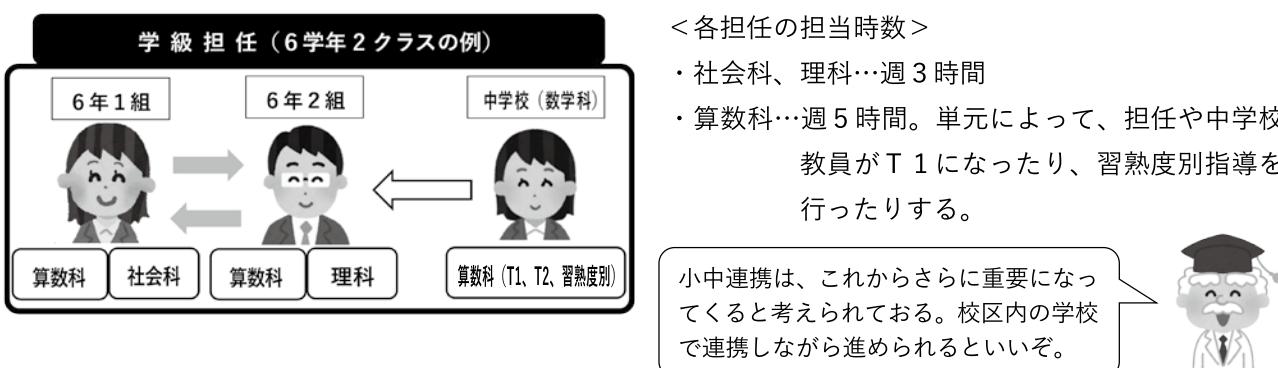
- メリット
- ・授業だけでなく、HRも交代で行うことで、学年全体の子どもの様子を把握することができる。
 - ・半分クラスを入れ替えて授業を行うことで、教師も子どもも「クラス」ではなく「学年」としての意識を高めることができます。など



☆ 実践例4 「学級担任+中学校教員による小中連携を生かした授業」 ☆

「学級担任+中学校教員による小中連携を生かした授業」は、担任の授業交換の他に特定の教科を中学校教員と共にTTT、習熟度別といった形態で指導する形態です。小中連携を進める上で効果的な方法だと考えられます。

- メリット
- ・中学校教師の専門的な授業を受けることで、中学校の学習へスムーズに移行できる。
 - ・小中学校間で子どもの情報や指導方法を共有することができる。など



◇教科担任制を円滑に進めて

いくために

8・9ページでは、「学級担任間の授業交換」等を先行実施している小学校の事例を紹介しました。多くの実践から下記のような成果が挙げられており、教科担任制の有効性をご理解いただけるのではないでしょうか。

一方、学級担任制では担任が継続的に子どもを見守り課題に迅速に対応できるメリットもあります。それが教科担任制を取り入れることで難しくなるのではないかということや、教科横断的な指導や教科間での関連を図る指導がやりにくくなるのではないかといった課題も指摘されています。教科担任制の目的を理解し、全教職員が協働的に進めていくことで、改善に向けたアイデアが生まれ、よりよい取組になっていくことでしょう。

次ページからは、十勝管内の小学校で取り組まれている「実践例1 学年内の授業交換」「実践例4 学級担任＋中学校教員による小中連携を生かした授業」をご紹介します。下記にまとめた先行事例の成果と課題の一例を踏まえつつ、今後、各学校で取組を進める上での参考にしていただければ幸いです。



成 果

<授業の質の向上/学習内容の理解度・定着度の向上>

- ・同じ内容の授業を行うことで授業改善が図られた。
- ・子どもの学習内容の理解度や学力の高まりが見られた。
- ・担当教科を分担することで、教材研究の充実につながった。

<小・中学校間の円滑な接続>

- ・子どもが安心して中学校に進学し、中学校での学習・生活に順応しやすくなる傾向が見られた。
- ・中学校教員が乗り入れ授業を行うと、進学時に顔見知りの教員がいることで、子どもの安心感につながった。

<多面的な児童理解>

- ・生徒指導上の課題を複数の教員で共有でき、一貫した対応が可能となった。
- ・複数の目で子どもを支援することができるようになり、担任だけでは気付けない子どもの様子を知ることができた。

<教師の負担軽減>

- ・同一学年の複数学級の授業準備を一度にできることで、授業準備の効率化が図られた。
- ・空き時間を教材研究や校務分掌等に充てることができ、超過勤務時間の減少につながった。
- ・週計画に掛ける時間が短縮された。

課 題

- ・行事等で授業時間が削られた際、振替の時間の確保が難しい。
- ・2時間連続の授業時数が取りづらい。
- ・特別教室の使用割当てを踏まえた上で時間割を作成するため、調整に時間が掛かる。
- ・担当教科によって総授業時数や週当たりの持ちコマ数に差が生まれてしまい、負担が偏ってしまう恐れがある。
- ・いろいろな教員が入れ替わるため、子どもを継続的に見取ることが難しくなり、子どもの変化に気付きにくくなる可能性がある。
- ・担当教員で複数学級の子どもの評価を行う必要があり、負担が掛かってしまう。

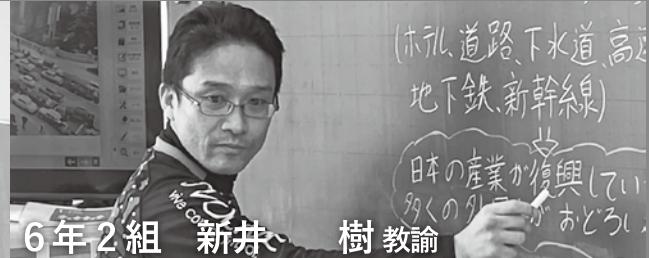
十勝管内の実践例1

「学年内の授業交換」

音更町立柳町小学校



6年1組 長野 隆宏 教諭



6年2組 新井 樹 教諭

○ 教科担任制の概要

6年生2クラスの国語科と算数科の2教科を学年内の授業交換で行っています。書写を含めた国語科を2組担任の新井先生、算数科を1組担任の長野先生が行い、週当たり4~5時間を担当します。また、6年生では、音楽科、理科、外国語科の3教科を専科教諭や特別支援学級担当教諭が担当し、専科指導も充実させています。

○ 実施の流れ

1 事前打合せ

毎週水曜日の放課後に、学年打合せの時間を設け、進度の確認や時間割の割り振りを行っています。また、時間割の作成は、隔週で各担任が作成し、業務の負担が偏らないように配慮しています。



2 授業実践

右図の時間割のように、国語科と算数科の時間をクラスで入れ替えて実施しています。算数では、複数体制で習熟度別学習を行っています。

3 事後の打合せ、評価等

放課後に学習の定着度について確認したり、子どもの様子を交流したりしています。また、行事が近くなると時間割が変更になる場合もあるので、必要に応じて打合せの時間を設けています。

評価は、それぞれの担任が担当している教科を2クラス分行っています。

6年1組の時間割					
	月	火	水	木	金
1	家	算	算	算	音
2	音	国	国	国	外
3	理	体	体	総	算
4	算	外	理	社	国
5	国	社	学	図	社
6	体	保		図	道

6年2組の時間割					
	月	火	水	木	金
1	家	国	国	国	外
2	理	算	算	算	音
3	音	体	社	総	国
4	国	社	学	体	算
5	算	外	理	図	社
6	体	保		図	道

【1週間の時間割例】

網掛けは学年内の授業交換、太字は専科の教科を表しています。

○ 教科担任制を進めるまでの配慮事項

担任は、同じ内容の授業を2回行うことになります。1回目の授業での反省を生かし、細かい部分を修正しながら2回目の授業を行っています。ただし、学級間で指導内容に差が生まれないように、大まかな授業の流れは変えないようにしています。また、担任以外の授業での学習の定着度や子どもの様子について日常的に情報共有を行い、保護者にも説明できるようにしています。



子どもの声

「担任の先生とは違った指導方法があり、楽しみながら勉強できるし、気分転換にもなる」
「いろいろな先生と関わることができるので、分からない問題を質問しやすくなった」
「中学校の教科担任制の授業形式に、小学校のうちから慣れることができるのがいい」
「いろいろな先生のアドバイスを聞くことができ、自分が納得できる方法で勉強ができる」

成果と課題

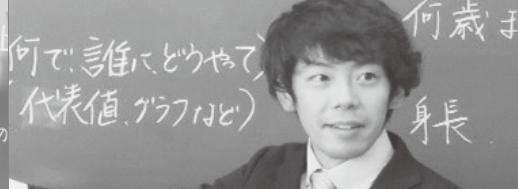
- 担当教科を分担することで教科をしづらって教材研究を行うことができ、準備の時間を確保することができる。
- 同じ授業を2回行うので、1回目の授業内容を修正して2回目の授業を行うことができる。
- 隣のクラスの子どもとコミュニケーションを取ることができ、学年の合同学習をスムーズに行うことができる。
- 学級で取り組みたい活動の確保や時間割の変更などの融通を利かせることが難しい。
- 子どもの様子についての情報共有を図るための時間を確保する必要がある。

十勝管内の実践例4

「学級担任+中学校教員による小中連携を生かした授業」大樹町立大樹小学校



6年1組 平 絵梨香 教諭



6年2組 石川 諒 教諭



大樹中学校 鈴木 崇伸 教諭

○ 教科担任制の概要

6年生2クラスの算数科の授業を、右記の3つの形態で行っています。また、理科と社会科の2教科を専科教諭が担当し、専門的な指導にも力を入れています。

①6年生担任がT1、中学校の鈴木先生がT2

②中学校の鈴木先生がT1、6年生担任がT2

③2クラスを3グループに分けて習熟度別指導

○ 実施の流れ

1 事前打合せ

定期的な打合せの時間は設けていませんが、学習進度の確認や鈴木先生の授業時間の変更等の対応は、休み時間を使って適宜行っています。

また、時間割の作成は6年生の担任が行い、作成後鈴木先生が確認しています。



【小中連携を生かした習熟度別指導の様子】

一人一人と丁寧に向き合うことができ、専門的な指導により学習意欲が向上しています。また、子どもたちも自分のペースで学習に取り組むことができるため、資質・能力の育成につながっています。

6年1組の時間割				
	月	火	水	木
1	国	道	国	体
2	算	算	算	算
3	理	家	図	國
4	音	家	図	総
5	体	家	社	社
6		理	外	理
			ク	

6年2組の時間割				
	月	火	水	木
1	国	国	国	道
2	算	算	算	算
3	音	体	国	家
4	理	外	体	家
5	総	図	理	家
6		社	社	ク

【1週間の時間割例】

網掛けは学年内の授業交換、太字は専科の教科を表しています。

○ 教科担任制を進める上での配慮事項

学級ごとに大きな差が生まれないように、授業の進度や子どもの理解の様子について情報の共有を図っています。また、鈴木先生は中学校教員という立場から、小学校の学習内容が中学校の数学にどのようにつながっているのかを子どもたちに伝えています。小中連携のメリットを生かし、子どもたちが算数に興味をもったり、中学校での学習を意識して取り組んだりできるようにしています。



子どもの声

「算数の用語を使いながら分かりやすく教えてくれるので、算数に自信がもてるようになった」
「中学校の勉強につなげることができるので、目標をもって勉強できる」
「中学校の先生が納得できる解説をしてくれたり、補習をしてくれたりするので、理解しやすい」
「3人の先生が習熟度別で授業をしてくれるので、自分のペースで勉強できる」

成果と課題

- 中学校の数学とのつながりを伝えることができるので、算数から数学へのギャップ解消につながっている。
- 小学校の学習が中学校の学習につながっていることを意識付けることができ、算数に対する意欲が高まった。
- 小学校と中学校の指導方法の統一を図ることができる。
 - 中学校に進学したとき、知っている先生がいることで新鮮味がなくなる。
 - 連絡体制の整備や時間割の作成の難しさがある上に、時間割の急な変更があった場合、対応しづらい。

わたしの 授業実践

～学習過程の重視と
振り返りの充実～

陸別町立陸別中学校

教諭 渡邊 耕平

■はじめに

私は縁あって小学校で4年間、中学では8年間勤務しており、その間、同僚や子どもたちから多くのことを学ぶことができました。今回は、その中で私が実践してきたことをお伝えしたいと思います。

■学習過程の重視

数学科の授業を行うに当たり、子どもたちが数学的な知識及び技能を確実に習得し、それらを生かして思考力、判断力、表現力等を育んでいくことは、とても重要です。

また、それらの資質・能力を様々な場面で活用できるようになることが、子どもたちが生涯にわたって自己実現を図っていくために何よりも大切だと思います。そのような考え方から、私は学習過程を特に大切にして授業を行っています。

『問題』に直面します。まず、その『問題』に対しても何を行えば解決することができるのかという『課題』を見付けます。さらに、『課題』を解決するための方法を見通し、解決のために1人で取り組んだり、あるいは周囲の人と協力して取り組んだりしていきます。課題解決後は、どうすれば同じ問題が発生しないか、または起こってもどのように対処すればよいのか振り返り、次につなげていきます。このように、日常の生活を分析してみると、数学の授業での学習過程と変わらないことが分かります。

数学の授業では、最初に教師が子どもに『問題』と出会わせるところからスタートします。その後『課題』を見付け、個人思考や集団思考を経て解決し、振り返りをするという過程を体験します。つまり、数学の学び方を学ぶことが、自分の生き方を学ぶことにつながっていくのです。

このような授業スタイルは数学の授業だけではなく、様々な教科でも応用されています。

人間は生活している中で、様々な業だけではなく、様々な教科でも応用できると思います。



数学の学び方を学ぶことが、
自分の生き方を学ぶことにつながる。

う」と『問題』を提示し、子どもたちは自分の『課題』を設定します。そして、手を着く位置や目線など自分の『課題』を解決するための見通しをもち、お互いに協力しながら『課題』を解決し、学びを振り返ります。

また、書写の授業では、整った字形

の見本と、そうではない見本を見比べ、「どうすれば上手に書くことができるだろう」と問いか、「文字の大きさと配列に気を付けて書こう」という『課題』につなげます。そして、漢字

と平仮名の文字の大きさの違いや行の中心といったポイントを見い出し、それを意識しながら書き、学びを振り返るという授業が考えられます。

■振り返りの充実

現在の学習指導要領が実施されから、特に学習の見通しと振り返りが重視されるようになりました。子どもがその日の授業や単元を通して「何ができるようになるか」を自分自身で理

解することはとても大切だと思います。ですから、私は一単位時間の授業や単元で見通したことや学んだことの振り返りがしやすいように、ワンページポートフォリオ（以下OPP）を使用しています。これは、毎時間の振り返りが用紙1枚にまとまっていて、授業の最後に記入し、単元を通しての振り返りを図るものです。授業は約45分で完結するように意識して行い、最後の5分程度をOPPの記入時間にしています。

OPPには単元の始めと終わりに取り組む問題を記載しています。

私がこのOPPを使って授業を行つてき、とても印象に残っている子どもの言葉があります。それは、「最初はこの問題は全然分からなかつたのに、単元の最後にはちゃんと解けるようになつていてから不思議です」という一言です。この子どもは数学が好きでも得意でもなかつたのですが、しっかりと自分の成長を肯定的に感じることができました。私はとてもうれしくなつたことを覚えています。

それらの問題は、単元で身に付けさせたい本質的な問い合わせ、その単元の知識がなくても、既習事項を組み合わせれば、辛うじて解くことができるようになっています。さらに単元の終わ

りに同じ問題を解くことで、始めより素早く正確に解くことができるようになります。また、解くことができなくとも、始めより正答に迫ることができるので、子ども自身が変容に気付くことができるようになっています。

今回紹介した「学習過程の重視」と「振り返りの充実」は、『問題』を解決するために自ら『課題』を発見し、ときには仲間と協力しながら『課題』を解決し、その過程や結果を振り返ることで、自分の力を育んでいくもので。これは学校教育目標につながるものだと思います。また、この学校教育目標は、変化の激しい社会で、子どもたちが自分らしく生きていくために必要な資質・能力です。「目の前の子どもたちが生涯にわたって、自己実現を図りながら生きていくことができるようにするため」ということを忘れず、これからも学校教育目標を意識しながら日々の実践を行つていきたいと思います。

■おわりに

私が現在勤務している陸別中学校の

学校教育目標は、「自立・挑戦・友愛」です。この目標に向けて成長していくように指導することが私の仕事であり、それを実現するには、行事や特別活動だけでなく、日頃の授業の中でも意図的、計画的に指導していく必要があると思っています。

学校教育目標は、「自立・挑戦・友愛」です。この目標に向けて成長していくように指導することが私の仕事であり、それを実現するには、行事や特別活動だけでなく、日頃の授業の中でも意図的、計画的に指導していく必要があると思っています。

子どもたちが生涯にわたつて、自己実現を図りながら生きていくことができるようになります。



わたしの 学級経営

～遊びを生かした

学級経営～

豊頃町立大津小学校

教諭 林 正則

■はじめに

私は、学級経営は遊びの中でさりげなくやる方がよいと考えています。「協力するクラスをつくる」などと宣言して黒板の上に掲示しても、それは自宅の冷蔵庫に娘が貼った「腹八分目」という貼り紙と同じで、あまり効果がないと思うのです。

また、初めて行う遊びは、授業の中で教えます。「休み時間にやろう」と言うと、「えーっ！他の遊びがしたい」という子もいますが、授業を早めに切り上げて「やろう！」と言うと、「やつたー！」と歓声が揚がります。今回は、私のオススメの遊びをいくつか紹介しようと思います。

■長縄跳び

盛り上がる度 ★★★★☆
オススメ度 ★★★★★

年度初めには、ドッジボールなどの「楽しさの温度差」が大きい遊びは選ばないようにしています。4月は長縄跳びをするのがいいと思います。

まずは、跳ばずに抜けていく「くぐ

■Sけん

盛り上がる度 ★★★★★
オススメ度 ★★★★★

2チームに分かれ、けんけんをしながら宝を奪い合う遊びです。つかんだり倒したり転んだりと、かなり激しい

このようにして、学級づくりの初期に、友達と一緒に達成感を味わわせていきます。うまく跳べない子もいると思いますが、そのような子どもに担任がどのように対応するかが極めて重要です。その様子を、クラスの子どもたちはじっと見ています。そのときの対応が、担任を信頼するのか、しないのかの大きな境目になります。

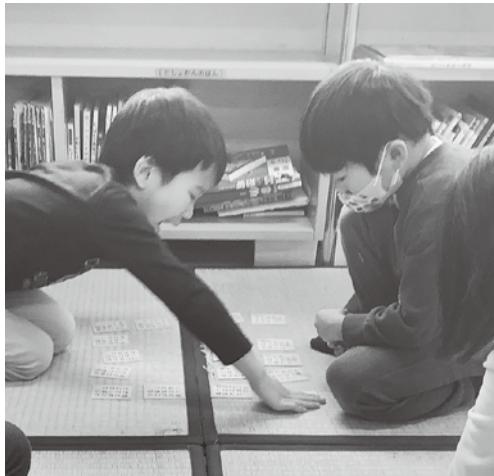


朝、児童玄関前で縄を回していると、子どもたちは登校順にランドセルを置いて跳び始めます。うまくなつていたら、1回跳びや8の字跳びを教えます。失敗せずに何回できたかを数えると、盛り上がります。「連續100回達成！」などと教室に掲示するのもよいと思います。

学級づくりは、遊びを通して達成感を味わわせることから。

遊びを通して達成感を味わわせることから。

遊びや読書、自然体験を子どもと一緒ににしながら、教室の中に一人一人の笑顔を増やしていく。



次々に投げ飛ばしていたのでした。けんかになることもありますが、体が触れ合うこと、宝を取るために作戦を立てること、メンバーと協力することなどを通して、クラスの仲がよくなります。

■百人一首

盛り上がる度★★★★★☆

オススメ度★★★★★☆

百人一首を使うと、20枚でできるので短時間で勝負ができます。それぞれ10枚のかかるたを自分の前に並べ、早くなくなつた方が勝ちです。慣れると、準

百人一首を使うと、20枚でできるので短時間で勝負ができます。それぞれ10枚のかかるたを自分の前に並べ、早くなくなつた方が勝ちです。慣れると、準

備から片付けまで10分以内にできるようになります。私の学級では、勝った順位が1つ上がる順位戦で行っています。上の句を覚えていると有利なので、努力次第でどの子も強くなることができるのがよいところです。現任校のように、学級の人数が少ない場合は、1回勝つと札が1枚増えるというようなハンデを付けて行う工夫もあります。ときには、トーナメント戦やチーム戦、下剋上戦など、いつもと違う形式で行うと盛り上がります。

■その他のオススメ

けん玉・こま・将棋などは、教室に常備しています。けん玉やこまは、検定カードを作ると、子どもたちは喜んで毎日練習します。将棋は、朝の会で、係の子が少しづつ指し方を教え、3学期にはトーナメント戦ができるまでに上達しました。初めは指し方を知っていた子たちが強かつたのですが、当時の学級にいたチェス女子日本代表の子が駒の動かし方を覚えると、将棋男子たちを次々と破って優勝した

のは、今でも印象に残る出来事です。
缶蹴りもよくやります。ある子が、着ている服や帽子を、友達とこっそり交換し、顔を隠しながら突っ込んでいくという変装作戦が大成功！ 缶を蹴った子たちは大喜び。違う名前を呼んでやられてしまつた鬼も、悔しがりつつも大笑いでした。
それから、本をたくさん教室に置いています。数人で同じ本を読んで内容を語り合う「読書クラブ」という活動始めた取組です。慣れてくると、楽しくなります。
そうに20分も30分も、ずっと本の話をしています。

また、教室への生き物の持込みは自由です。低学年の担任になると、教室が生き物で一杯になることも。ダンゴムシ、毛虫、アリ、カナヘビ、アマガエルなどが教室に住むようになります。すると、クラスから威張ったり、馬鹿にしたりするような雰囲気が減り、教室の中には一人一人の優しい笑顔が増えてきます。

休み時間に職員室で飲むコーヒーは魅力的な誘惑ですが、その誘惑に負けないように、これからも子どもたちと、たくさん遊ぼうと思っています。



■終わりに

学校は学問や運動を学ぶ場ということがなつてるので、勉強や運動ができることが、子どもたち同士の優劣の判断基準になりがちです。しかし、今まで紹介した遊びや読書、自然体験などをしていると、計算が速いことも、かくれんぼで隠れるのがうまいことも、ミミズの居場所を知っていることも、どれも甲乙付け難い長所なのだと子どもたちが感じるようになります。

すると、クラスから威張ったり、馬鹿にしたりするような雰囲気が減り、教室の中には一人一人の優しい笑顔が増えてきます。

共に学び共に育つ

～子どもが輝くヒントを探して～

■適切な配慮で「できた！」へ

「うわあ！この鎌よく切れるよ。楽しい！」稻刈り学習のこと。さっきまで「僕、下手なの。家で草刈りを手伝うけど、全然切れないの」としょんぼりしていたのに、今は満面の笑顔。手には左利き用の鎌。田んぼの先生が左利きの子のために用意してくれたのです。「本当に！刃が逆だ！」と見比べた後、友達に呼ばれてみんなの中へ走って行きました。

弾むように走る後ろ姿を見ながらふと思いました。気付くと適切な配慮でこんなに笑顔になるのだと。ふだんの私はそこまで配慮をしているだろうか。まだまだやれることがあるはず。反省です。

■「好き」から始めよう！

車が大好きな子がいます。文章を書くのが苦手ですが、教頭先生が車を買い換えるというので、国語の「始め・中・終わり」の構成を考えて、お勧めの車の作文を書きました。さらに、車販売員という設定で、セールスもしてもらいました。計算が苦手でも、時速や燃費の話題はお手のもの。電卓片手にセールスは更に冗舌に。敬語や単位量当たりの学習でも、大好きな車と結び付けることで生き生きと輝きを放つのです。「好き」



新得町立
新得小学校

教諭
伊藤 佳子

は最強だ、と思った出来事でした。

■「安心」がたくさん

保育所と幼稚園を訪問したときのこと。遊びの時間はダイナミックなのに、一度先生の声が掛かるとさっと



お片付け。なぜか。先生方の声掛けが実にシンプルなのです。余計なことは言わず、しかも笑顔。何という安心感でしょう。他にも身振りや絵カードなどもあって分かりやすいのです。「身振りや絵カードなんて低学年まででしょう？」という考え方もあるかもしれません、大人でも海外など知らないところへ行けば身振りや標識・イラストなどに安心します。保育所や幼稚園の訪問は、私が忘れかけていたことをたくさん思い出させてくれました。

■子どもはみんなの中でこそ育つ

できたことも好きなことも、1人よりみんなの中の方が何倍もうれしい。うれしい経験を重ねることで子どもは育ちます。だから私は、子どもが輝くためのヒントを探します。「どの子もみんなの中で自分らしく輝けますように」と願いながら、今日もヒント探しです。

■はじめに

栄養教諭の働き方は、各町村の方針を基に、個々の考え方により創意工夫することができます。給食の管理と並行して、自分の可能な範囲で継続して食育について指導することもできます。

これまで以上に子どもたちと関わることができないかという思いから、私が始めた取組を紹介します。

■給食掲示板

中札内小学校に隣設されている学校給食共同調理場をつなぐ渡り廊下の扉に、掲示スペースを設けました。献立名とその献立に使われている食品のカードを貼り、給食の情報をお知らせしています。

掲示板を見て、好きな食べ物の話をする子や、掲示板に丁寧に献立名を書いてくれる子、私と雑談するためだけに立ち寄る子など、様々な子どもたちの様子を見ることができます。

ぜんざいの無償提供があった日には、多くの子どもたちが掲示板の前に展示した実物のビートや上白糖を持ったり、触ったりして楽しんでいる姿が見られました。その様子を見て、掲示板や展示物が食への興味や関心をもつきっかけになったのではないかと感じました。

■給食指導

同僚の先生に声を掛けてもらい、毎月の初めに食育目標を活用した給食指導を中札内小学校の全学級で始めました。黙食のため、一方的に指導を行う形になりますが、子どもたちは表情などで反応してくれます。黒板に貼る掲示物は、話の後でも振り返られるように一目で分かるものを心掛けて作成しています。



中札内村立
中札内小学校

栄養教諭
山田 昌未

給食指導の後も、担任の先生が子どもたちに給食指導の内容について声を掛けてくれていることが、その後の子どもたちとの会話から分かります。栄養教諭一人ではカバーしきれない部分を助けてもらえて、とてもありがとうございます。

■おわりに

できることから始めてみた取組は、私が予想していた以上の収穫がありました。現在、新型コロナウイルスに感染した子どもが増えてきたため、残念ではありますが給食指導は見合わせています。

ただ、今回の取組の成果を生かして、子どもたちが楽しく学ぶことができる内容の食育活動を考えて、今後も実践していきたいと思っています。

健やかな心と体

～できることから始めてみた食育～

日本人学校より



シンガポール：チャンギ



シンガポールは、マレー半島の南端に位置する石狩市ほどの小さな国です。人口の70%以上を中華系、20%強をマレー系、インド系、西洋人、日本人等で占め、人口密度は世界第2位となっています。1965年に独立し建国57年となりました。金融、観光、教育などの世界的な中心地なので、多くの人が行き交い、発展を続けています。



教諭
佐藤 紀子

シンガポール日本人学校チャンギ校

シンガポールには、チャンギ校（児童数662名）、クレメンティ校の小学部（745名）と中学部（421名）の3つの日本人学校があります。私が勤務するチャンギ校は1995年に開校しています。世界の玄関口と呼ばれる「チャンギ空港」の隣に位置し、飛行機が往来する中で授業を行っています。校舎は廊下の壁がなく開放的です。スクールバスは約30台。教職員約70名のうち、約20名はEnglish Teacherです。教職員全員がチーム一丸となって様々な教育活動に取り組んでおり、昨年はオンライン授業を約2カ月間行いました。

本校は英語教育と国際理解教育、特別支援教育に力を入れています。週3回の英語の授業に加え、オールイングリッシュで行うイマージョン教育を取り入れた音楽や水泳の授業、さらに現地校交流など、グローバルで個性を大切にした取組が特徴的です。

(1) 国際バカロレア(IBM)研究指定校

2019年度より、世界の複雑さを理解し、対処できるグローバルな子どもの育成(IBM)プログラムの研究をスタートしました。3年生では「シンガポールの食」を探究テーマに、教材開発と授業づくりをしました。子どもたちは市場に行き、食べて調査する体験を通して、多民族の文化が影響しながら共生してきた歴史に気付き、シンガポールの特徴やすばらしさを学びました。



(2) マレー・インド・中国★民族衣装デー♪

本年度は、中国の旧正月にプロのダンス団体をお迎えし、3年ぶりに全校ライオンドラゴンダンス鑑賞会を実施しました。会場はプロのダンサーの迫力に、熱気の渦につつまれ、これらを通して、子どもたちは異文化を体験するとともに、異なる文化を尊重する心や態度を学ぶことができました。



(3) シンガポールの空に「どっこいしょ～！」

昨年9月、新型コロナウイルスに関わる規制が緩和され、校内ではマスクを外すことが可能になり、全ての行事が解禁になりました。私は、十勝での実践を生かし、運動会では中学年250名に表現「よっちょれ」を指導しました。

職員はフル回転で忙しい日々を過ごしていますが、子どもの成長や笑顔、保護者の喜びを励みに奮闘しています。今後もチーム力で学校を盛り上げ、子どもの笑顔のために、地道に実践を積み重ねていきたいです。



研究発表大会

令和5年2月7日

十勝教育研修センター

オンライン開催

約130名の先生方にご参加いただき、今年で26回目となる十勝教育研究所研究発表大会を、盛会裏に終えることができました。今年度も、Web会議システムを活用したオンラインでの開催とし、勤務校等から参加していただきました。発表を基にした参加者交流では、参加者が自校での取組と関連付け、明日からの授業に生かせる交流を目指し、ブレイクアウトルーム機能を活用して行いました。本大会にご協力、ご参加いただきました皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。



協力員研究実践発表の様子



オンライン開催の様子



共同研究実践発表の様子

【参加者アンケートより】

- ・ループリックを単元の早い段階で提示すること、始めるときには丁寧に指導すること、これを繰り返すことが、“主体的な学び”につながる1つの方法になるのではないかと思える内容でした。
- ・道徳での授業の工夫を実際に動画で見ることができて、とても参考になりました。話し合いを深める手立てが難しいのでいろいろな実践をもっと見てみたいと思いました。

研究の詳細は、本広報誌とともに届けました「研究紀要No.217」をご覧ください。校内研究や日常の授業実践にご活用いただければ幸いです。

指導案等の資料は十勝教育研究所HPからダウンロードできます。パスワードは後日教育委員会及び各学校にお知らせします。



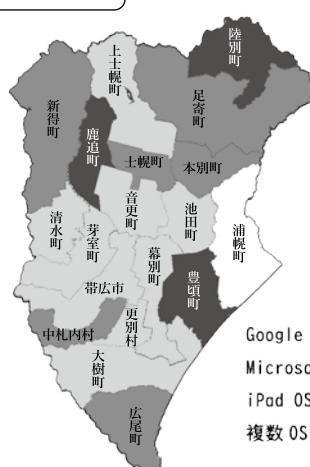
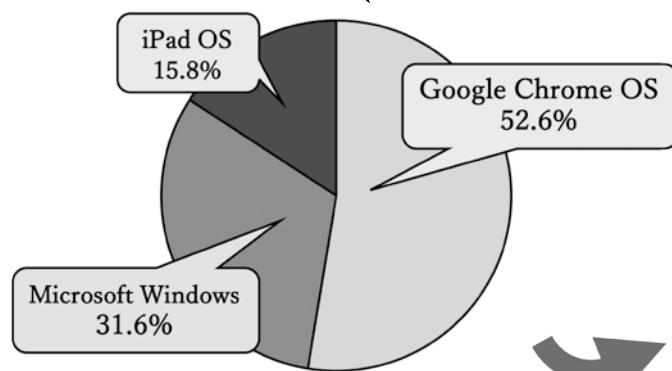
エッ！
そうなの？

十勝管内小・中学校意識調査 数字で見る十勝の教育



十勝教育研究所では新たな取組として、十勝管内の教育課題や教育情報・各学校の状況等、様々なテーマに関する調査を行い、その結果を広報誌やHPで公表し、情報提供を行います。

第2回アンケート結果より「一人一台端末で使用しているOS」



Google Chrome OS
Microsoft Windows
iPad OS
複数 OS

第2回目は、昨年12月に各市町村教育研究所に実施した「一人一台端末や校務支援システムの導入状況について」の結果を公開します。詳細は、右下のQRコード又は十勝教育研究所のHPからご覧ください。



パスワードは、後日教育委員会及び各学校にお知らせします。

編集後記

担当のオススメ本



各地の小・中学校で授業研究の支援を行ってきた著者が、優れた授業の様子を逐語記録により紙上再現しました。子どもたちの言葉を丹念に追いながら、「対話」によって学びを深めるとはどういうことか、そのために磨くべき教師の力量、授業づくりの要とは何かを、具体的に説き示した一冊です。

「対話的学び」をつくる
—聴き合い学び合う授業
著/石井 順治
出版社/ぎょうせい

担当から

今年度も、長年十勝の教育に尽力された先生方が定年退職を迎えます。十勝の子どもたちのために全力で教育活動に取り組まれた皆様に、心より感謝申し上げます。

2022年を表す漢字に「戦」が選ばれました。教育現場でも、新型コロナウイルスへの対応に「悪『戦』苦闘」しながら、子どもたちのために創意工夫を凝らした教育活動に取り組まれていることと思います。今回の特集では、小学校高学年における教科担任制について、先行事例や十勝管内の2校の実践例を紹介させていただきました。学校の協力体制を整えながら、それぞれの先生方の得意分野を生かし、子どもたちのために「力『戦』奮闘」していかれることを願っています。

ご多用中にも関わらず、原稿をお寄せいただきました先生方や関係者の皆様に感謝いたします。十勝教育研究所は、これからも先生方のお役に立てるような教育実践や時代のニーズに合った価値ある情報を提供してまいります。

次号予告

紹介 採用校長・昇任教頭・ 新採用教職員の紹介

- ◇巻頭言 ◇教育現場への期待
- ◇わたしの授業実践 ◇わたしの学級経営
- ◇教育情報 ◇日々徒然

089-0531
中川郡幕別町札内暁町290番地の2
TEL 0155-56-2331
FAX 0155-56-4260
Email staff@tokyoken.net

印刷所 株式会社アド・プリント

日々往々

初心にかえつて

音更町立駒場小学校

事務職員 中正康葵



何気ない出来事に心を寄せて

自分を見つめて

幕別町立白人小学校

教諭 太田越 雄三



2019年秋、幕別町の社会科副読本改訂に関わる取材のため、津別町にある「(株)山上木工」を訪ねた。ここは、人口5000人ほどの小さな町ではあるが、東京2020オリンピック・パラリンピックでメダルケースを採用されたことで有名になった会社である。また、「イスワーツク」という自社ブランド椅子を世に出しており、そのクオリティの高さから、いつかは欲しいと思っていた私の憧れのブランドでもある。対応していただいた山上裕一郎専務は私と同年代にもかかわらず、「オホーツクから世界へ」を掲げ、山上木工をメダルケース採用へと導いた立役者である。その活躍は様々な媒体で紹介されているので、ぜひご覧いただきたい。

自分とは明らかに見えている景色が違う方との対談は非常に刺激的で、そのときの興奮は今でも鮮明に覚えている。同時に、「自分はここまでポジティブな影響を与える存在になっているのか」という強烈な疑問も感じた。この疑問に対するアクションとして、環境を変えてみることにした。研修制度を利用し、アウトドアによる地域振興を行っていた「(株)ディスティネーション十勝」へ教員長期社会体験研修に出たのである。そこで出会いまして刺激的で、私の掛け替えのない財産となっている。

一年間の研修を終え、今は学校現場で子どもたちとの日々を過ごしている。どれだけ人間力を高めることができたのかは分からぬ。しかし、山上さんとの対談からの日々が、今の私をつくっているのは間違いない。そんなことを、我が家に置かれた「イスワーツク」の椅子に座りながら考えている。

「新採用の事務職員に仕事を教えてあげてほしい」と今年度の初めに中学校時代の担任の先生から連絡があった。あまり経験できないよい機会と思い、自分自身も未熟ながら引き受けることにした。

仕事を教えるに当たって、まずは私が新採用のときに困っていたことは何だったのだろうと思い返しながら、考えてみた。仕事に行っても何をしてよいのか分からなくて、隣の学校の事務職員の方に一日に何度も電話をしていたことや、先生方に質問されてもすぐに答えることができなくて、過去の資料を調べたことを思い出した。また、机の上に山積みにされている文書を見てうんざりしていたことも…。

新採用の方にとって、学校のことはもちろん、給与についても、社会保険や年金・福利厚生など、何も分からない中で手続きをすることはハードルが高いと感じる。今回、お話をさせていただいた新採用の方には、できるだけ丁寧に説明したつもりだが、一度にたくさんのこと伝えたので、情報量が多くて困惑させてしまつただろうなと反省している。

採用から7年目となつた今でも、分からなくて調べることは多々あり、職場の先生方にはたくさんのご迷惑をお掛けして申し訳なく思つてはいる。まだまだ人に仕事を教えられるほど知識も経験もないが、今回のような機会をいただけたことで、改めて周りの方々の助けがあつたからこそ、これまで仕事ができてきたのだと実感した。同時に、これからも学び続けていかなければならぬと感じている。

【中・高生との 合同新体力テスト】

中・高生と一緒に新体力テストに取り組んでいます。中・高生にやり方を教えてもらったり、計測してもらったりするとともに、励まされることで、記録を高めていました。



学校めぐり



上士幌町立上士幌小学校

■児童数 232名（14学級） ■教職員数38名

本校は、大正3年に開校し、昭和・平成・令和までの間に9つの学校を統合しながら、今年で108年目を迎えます。平成27年からは、こども園から高等学校までを統括した「かみしほろ学園」が設立され、学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクールの取組を推進しています。また、「交流フェスティバル」などの児童・生徒の交流事業や、教職員同士の研修「かみしほろ学園研究大会」など、校種間で連携した取組が展開されています。



【かみしほろ学園交流フェスティバル】

小学生から高校生までが一堂に会し、総割りのグループに分かれ、3つの競技を行いました。高校生がリーダーシップを発揮して、競技や作戦会議を行い、親交を深めました。

【総合的な学習の時間「かみしほろ学】

総合的な学習の時間に町内的人的・物的資源を活用し、「かみしほろ学」を学んでいます。第5学年は糠平ダムを訪れ、再生可能エネルギーについて探究しました。

【SDGsの学習】

上士幌町はSDGsを推進しており、本校の子どもも高学年でSDGsの学習に取り組みます。町のゼロカーボン課の職員が先生となり、探究的な学習を進めてくれます。



HP QR コード



十勝教育研究所